

「MO」「LO」さまざまな売買方法

新システムで便利になった東工取

8月上旬、東京工業品取引所（東工取）の金先物相場（先限）は1グラム＝3000円の大台突破に向け、今年3度目の挑戦を試みていました。昨年の今ごろ3300円超の高値をつけていた金相場は金融危機を受け失速、一時は2100円近くまで値を下げました。その後は他の国際商品相場の低迷を尻目に復調に転じ、今年2月以降は2700～3000円で推移しています。この間、2月下旬と6月上旬には3000円を若干上回ったもののそれ以上は値を伸ばせず反落。チャートの際にはこの3000円付近が上値抵抗になっています。もし今回3000円を突き抜けていけば新高値も視野に入っていたところでした。

値段に条件付け

こうした場面で金先物を買うのか、それとも売るのかは判断の分かれるところですが、いずれせよ正しい注文方法を知っていなければ話になりません。

商品先物取引の売買注文方法は、基本的に株取引やFX（外国為替証拠金取引）と大きな違いはありません。基本で最も多用されるのは「成行注文」と「指し値注文」の2種類です。

成行注文は価格を指定せず「いま買える（売れる）」値段で約定を目指しま



す。一方の指し値注文では「3000円以下なら買う」というように、あらかじめ値段に条件を付けるのです。

注文に条件を付けることを覚えると、トレードの世界がぐっと広がります。

一般的には「安く買いたい、高く売りたい」というのが常識ですが、トレードをしていると必ずしもそうではない場面に出くわすことがあります。

例えば先の金相場で、3000円の上値抵抗線を突破したらさらに高くなると考えている場合がそれです。いまは2950円ですが、3000円を超え3050円になって騰勢を確認したら買おうという場合には、3050円で買いの「逆指し値」注文を出します。

逆に3000円は付けたものの、上値抵抗

線を破れずに2900円まで下がってきたら、そのときこそ売りと考えている場合には売りの逆指し値注文です。

異なる注文体系

ただ、今年5月に東工取が新しい取引システムを導入し、少々事情が違ってきました。同システムは従来の、国内で通用する売買注文とは異なる注文体系を採用したからです。とはいえ先物は先物。すべてが根底から覆ったわけではありません。

成行注文に近いのは「マーケット・オーダー（MO）」ですが、両者の違いは注文枚数に対応する反対側（買いに対する売り、売りに対する買い）の注文が不足している場合にあります。成行の場

新・商品先物入門

20

日本商品先物振興協会

小島 栄一

合、100枚の買いに対して売り注文が90枚しかなければ、まず90枚が約定し、残りの10枚に見合う売り注文が出てくるまで、10枚の買い注文は留め置かれます。しかし、MOでは残りの10枚が留め置かれずにキャンセルされてしまうのです。

指し値注文に近い「リミット・オーダー（LO）」も考え方は同じです。ただしLOでは、指し値の条件で約定できない部分については「F a S（フィル・アンド・ストア）」という条件を付けることで相対する注文が出るまで留め置くことができます。約定できるだけ約定して残りをキャンセルする場合にはF a K（フィル・アンド・キル）、全量同時に約定できない場合はすべてをキャンセルする「F o K（フィル・オア・キル）」を条件指定します。

東工取の注文方法はここで紹介しただけではありません。まだまだ便利な注文方法がたくさんありますので、詳しくは東工取ホームページ（www.tocom.or.jp/jp/）をご参照ください。